



言葉の楽しさ・よきよき言葉遣いについて

ある学年の廊下に、折句の作品が掲示されていました。折句とは、各句の頭にももの名前などを折り込んでよんだ、俳句や川柳などのことです。平たく言えば大喜利などで使われている「あいうえお作文」です。掲示されていた折句は、以下のようなものです。何が折り込ま



【折句の作品1】

本を読んでいる子は誰なんだろう
だらだらアイスを食べ歩いてやかんがわいた
野山に登ってお花見だ



【折句の作品2】

みたらし団子を作ってミックスジュースも作ったのに
猫に食べられて
アイスを買ってやっと食べられると思ったら
父さんに食べられた



れているかはお想像にお任せしますが、言葉遊びとして楽しい作品に仕上がっていることがわかります。

先日、亡くなられましたが、詩人の谷川俊太郎

の作品にもつながるもののように思いました。

一方で、言葉によって相手を傷付けることも、残念ではありますが、子どもたちの生活の中で起きています。テレビやネットで使われている否定的な言葉、暴力的な言葉、差別的な言葉が、校内で聞かれることもあります。その都度、指導をしていますので、自分で気付いてそういった言葉遣いをやめている子はたくさんいます。

SNS等による誹謗中傷が社会問題になっています。子どもの社会は、大人の社会の縮図です。私たち大人が言葉の楽しさ、美しさを伝えていく必要があると思います。ご家庭でも、折句を作って遊びながら、正しい言葉の使い方、日本語のよさなどについて話をしてみてはいかがでしょうか。

秋のおもちゃまつり(幼・保・小交流会)

11月25日(月)に「秋のおもちゃまつり」を1年生が開きました。このおもちゃまつりに向けて、1年生は準備に励んでいました。どうすれば、幼稚園、保育園の子どもたちが喜んでくれるのか、ということを考えながらゲームを作ったり、プレゼントを用意したりしました。園児もそれに応えるように、1年生が用意したおもちゃで楽しく遊んでいましたし、園児がもってきていた袋には、1年生からのプレゼントがたくさん入っていました。



このおもちゃまつりでは、園児と1歳しか変わらない1年生が、随分大人に見えました。こういった子ども同士の間で、



相手の立場になって考える、上手にコミュニケーションを図る、物事を工夫する、ということを経験しました。1年生がよく頑張りました。